

企業参入による取組事例 [香川県三豊市]

1. 地域農業の状況

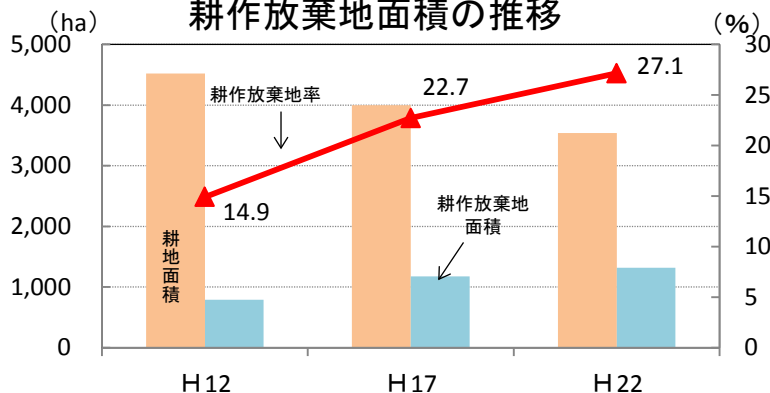
○ 三豊市は、香川県の西部に位置し、南北に細長い地形を持ち、徳島県に接する讃岐山脈から、丘陵地、田園地帯、半島部を経て島嶼部、瀬戸内海へと多様な自然環境が広がっている。



○ 本市の農業は、米麦をはじめ、野菜、果樹、畜産、花卉工芸作物に至る多彩な農業が営まれている。特に山間部における果樹（ぶどう、みかん、もも等）、茶、タケノコを始め、平地部分を中心とした冬場のブロッコリーは県内の有数産地となっている。また、半島部で栽培されるマーガレットは全国一の産地として名高い。

販売農家数は14,677人(平成22年農林業センサス)で県全体の15%を占め、農業の非常に盛んな地域であるが、一方では自給的農家の増加、高齢化や担い手不足が進行するなど、農業は総体的に衰退している。

耕作放棄地面積の推移



2. 耕作放棄地再生利用の取組

取組主体	さんわ農夢(株)	地区名	やまもと山本地区
再生面積	1.8ha(経営面積4.5ha)	取組年次	平成23年～
作付作物	露地野菜(サツマイモ等)、施設(イチゴ)	販路	県内菓子店、市場、インターネット販売

(1)耕作放棄地を再生したきっかけ

○ 三和建設工業(有)は、香川大学農学部と連携し、平成22年より木質チップや微生物を活用して堆肥の生産を始めた。公共事業等が減少する中で、新規事業による経営の安定とともに、堆肥の特性について自ら実証するため、平成23年4月に「さんわ農夢(株)」(従業員数3名)を設立し、農業に参入した。生産の基盤である農地については、地域保全の観点から、地区内の不作付地や耕作放棄地を活用することとした。

(2)耕作放棄地の再生への取組み

○ 三豊市や地域の農業委員からのあっせんにより、平成23年6月に1haを賃借し、そのうち、耕作放棄地であった43aについて、平成23年度耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を活用して再生作業を行った。

○ 再生した農地では、木質チップ、草等を原料に製造した堆肥を投入して、ブロッコリーの作付けを行った。また、平成24年からは施設でのイチゴ栽培やサツマイモ、カボチャなどを作付けするとともに、平成26年度にさらに交付金を活用して再生作業(1.4ha)に取り組み、経営面積の拡大を図り、経営の安定化に努めている。

○ さらに県の6次産業化支援事業を活用して、県洋菓子協会とサツマイモのペーストを使った菓子の開発を行い、平成26年8月から、製造・販売(県洋菓子協会加盟の菓子店4店舗)を開始している。これにより、サツマイモの売上拡大を図るとともに、雇用の促進、地域の活性化を目指している。

活用した支援策

H23,26 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金(国)(再生作業)
H26 農業の6次産業化等促進事業(県) 他



菓子の開発